

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	・小学校での既習事項が身に付いていない。特に、漢字、ひらがなを含めた読み書きが苦手である。 ・自分の考えを書くことで表現することに苦手意識をもっている生徒がクラスに数名いる。	・既習事項が定着していない。いまだに、文章をひらがなで書く生徒がクラスに1～2名程度いる。 ・自分の考えを具体的に分かりやすく伝える力に課題がある。特に作文や発表に対する苦手意識のある生徒が多い。 ・平易な言葉や具体例を挙げないと理解ができない生徒が多い。	・自分の考えを適切な言葉を使って分かりやすく表現する力に課題がある。 ・文字の形が取れない生徒、簡単な文章も平仮名で書く生徒が各クラスに数名いる。 ・全国学力調査の正答率が74%で、東京都を2%、全国を4.2%平均を上回っている。
学習状況	・漢字に関しては、毎回のテストに向けて学習をしている様子が見られる。しかし、家庭で学習をしている生徒は少ないように感じる。 ・グループ活動を通じた学習に対してはとても意欲的に取り組んでいる。ノートに考えをまとめるなど書く授業になると取組に差が出ている。	・読むことや書くことに苦手意識もあるが、授業中の課題には意欲的に取り組む生徒が多い。 ・板書を写すだけでなく、自分の考えや他の生徒の発言等をノートに書く生徒が増えた。一方で、板書を書き写すことに時間がかかり、それだけで精一杯な生徒は固定化されてきた。 ・自主的に発言・発表する生徒に偏りがある。指名されれば発言できる生徒は多い。	・群読やビブリアバトルなどの発表時の表現を工夫して取り組むことができる。 ・自分の考えをまとめた後、他の生徒と意見を交流し、考えを再構築できるようになった。しかし、交流しても考えをまとめることができない生徒が一定数いる。 ・意欲的に漢字の学習に取り組めており、おおむね満足のできる状況である。
指導上の課題	・作文の書き方や自身の考えを表現する方法など、表現においての型を教えること。 ・生徒がより深く学ぶことができるよう、より高度な解釈の読みの授業にもっていくこと。 ・3年間の基礎になるよう授業を組み立てること。	・主体的・対話的で深い学びに繋がる話し合い活動の仕方を身に付けさせること。また、話し合い以外にも自身の考えを書き、推敲する等、考えを深める工夫をすること。 ・記述式問題の答え方、文章を書く際の「型」や書き言葉の使い方を定着させること。 ・漢字や文法などの言語に関する知識・理解を高めること。	・問われている内容を正しく理解し、適切に答える力を付けさせること。 ・「繰り返し」「深く」読むことにより、自分の考えを深めさせること。 ・語彙力を増やし、自分の考えが最も伝わる適切な表現ができるようにさせること。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	・より深い学びができるよう、個と全体のバランスを意識した授業を行いつつ、グループでの活動も多く設定する。 ・板書に書く内容は最低限に抑え、生徒自らの考えを反映させることができるよう、時間を確保する。	・単元の目標を達成するなかで、基本的な力を身に付けることができるように課題設定を行う。 ・より深い学習が達成できるように、ICTを活用した・小グループによる学びの機会を多く設定する。 ・授業ごとの漢字テストや語彙力を付けるテストに取り組むなかで家庭学習の習慣を身に付けさせる。	・単元で身に付けるべき力を意識した課題の設定を行い、問題解決力を身に付けさせる。 ・条件作文や意見文を書く機会を設け、目的に沿って客観的に分析し、価値を論じられる文章を書かせる。
評価方法	・ワークシートなどをこまめに回収・返却し学習の変容が確認できるようにし、第三観点の評価材料を増やし、日々の学習を評価に反映させていく。	・各時間のテーマを明確に示すとともに、「学んだことは何か」を確認し、振り返りをさせる。 ・各単元の身に付けるべき力を明確かつ簡潔な言葉で提示する。	・毎時提示する「本時の目標」が達成できたかを確認し、振り返りをさせる。 ・思考の推移、再構築の経緯、振り返りを総合的に評価する。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	・学習内容に関して、意欲が高く授業中の発言も多い。 ・資料の読み取りや、図表の作成等、正確に判断、表現することに苦手と感じている生徒が多い。 ・単純な知識の習得に関しては、一生懸命努力する傾向が見られる。	・学習内容に関して、意欲が高く授業中の発言も多い。 ・文章題の基本的な力を付けてきた生徒が多い。 ・資料活用に関心・意欲をもつ生徒が増えてきた。 ・漢字のまちがいが増えてきた。（1年生の時は無かったまちがいがいすら見られた。）	・学習内容に関して意欲が高く、ノートなどの取り組みも積極的な生徒が多い ・1・2年生の範囲の復習や基礎の定着において、不十分な点が見られる ・受験を見通し、日々の学習への意欲が高まっている生徒がいる。
学習状況	・図表の読み取りや学習のまとめに苦手意識をもっている生徒が多いので、段階的にヒントを出しながら授業を進めていく必要がある。	・班学習によく取り組み、話し合いも活発である。 ・積極的に発言する生徒は、家庭学習も意欲的である。 ・少数だが、学習習慣が身に付いていない生徒がいる。	・都道府県の場所や国名、地名、年号など、基礎・基本的な知識の部分で苦手意識をもっている生徒が多い。
指導上の課題	・詰め込み型の授業展開とならないように、興味・関心が引き出されるような授業を主としていく必要がある。見たことも、聞いたこともないようなことを、どうイメージをもたせるかが課題である。	・繰り返しにより、学習の成果を定着させることが昨年以上に重要になってきた。 ・家庭学習の習慣が付いていない生徒については、個に合わせた指導を考える必要がある。	知識の定着と既習事項の復習、反復、定着度理解に要する時間の確保において、時間配分を一層工夫する必要がある。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	・授業の中での取り組みを重視し、課題や単元テストを行っていく。 ・定期テスト後には必ず振り返りを行わせ、今後の取り組みをどう改善していかなければならないかを考えさせる。 ・出来なかったところのやり直し作業を行わせる。	・予習→班学習→授業→復習→テストのサイクルを明確にし、予習・復習の呼びかけを通じて学習習慣の定着を図る。 ・説明的な文章を書く力がのびてきたので、少しずつ高度な課題に取り組む。 ・今年も振り返り学習で学習内容の定着を図る。	・基礎・基本的な事項の定着を図るために、ワークシートや小テストなど、指導・評価方法を適宜見直し、自分自身の活動を振り返る作業に充てる時間を確保する。
評価方法	・日頃の授業の中で行うワークシートのまとめ、定期テストの振り返りを行う。（主体的に学習に取り組む態度） ・定期テスト、単元テスト、課題提出等。（知識・技能、思考・判断・表現）	・小テスト等の課題で、基礎・基本の定着や技能・思考を確認し評価する。 ・定期的に、「ふりかえり票」を配布し、テスト・小テストなどの定着を生徒自身に確認させ、自己評価できるようにして、評価を次の学習につなげる。 ・ICT学習の取組をふやす。	・小テストや振り返りワークシートでの設問の工夫を行うこと、およびその評価規準を生徒に明示し、多面的・多角的な方法で評価を行う。 ・生徒が自身の取組について振り返る時間を引き続き確保する。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学 力 分 析	・正負の数、文字式ともに基本的な四則演算はほとんどの生徒が行うことができるが、項が増えると手がつかなくなることが多い。 ・問題文から情報を適切に読み取り、式に表したり説明したりすることが苦手な生徒が多い。	・基本的な四則演算ができない生徒は、1, 2年の数量問題もできない。 ・数量の分野は理解していても、関数の分野は苦手意識を持つ生徒が多い。	・全国学力学習状況調査の結果から、計算・図形は東京都・全国の平均を上回っていたが、関数・データの活用は下回っている。抽象的な内容が苦手な生徒が多くいると感じられる。
学 習 状 況	・授業は集中して取り組んでおり、その後の問題演習では正しく解くことができているが、前の学習内容の復習を行うと定着できていない生徒が多い。 ・学習者用端末を用いた問題演習が定着している生徒も見受けられ、家庭学習の習慣ができている生徒と、まだ身に付いていない生徒の差ができているように感じる。	・授業に集中する生徒は多いが、内容によってはほとんど理解できていない生徒もいる。 ・授業中ではできていた問題が、定期考査ではできていない。定着するまでの家庭学習ができていない生徒が多い。	・授業では熱心に取り組む生徒が多いが、その後の定着するまで根気強く学習に取り組める生徒が少ないと感じる。
指 導 上 の 課 題	・ノート記入に手一杯で十分に説明を聞くことに集中できていない、解く時間が不足しているなどの生徒が見受けられる。	・習熟度に応じた指導を行い、生徒が意欲的に課題に取り組めるようにする。 ・指導計画に沿った授業を行いながら、既習内容の復習を効果的にを行い、授業内容の理解を深めさせる。	・授業時間の中で主体的に学ぶ時間（グループ学習の時間など）が少ない。 ・習熟度別少人数展開から単学級での授業に形態が変わり、授業のスピードに戸惑っている生徒もいる。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改 善 計 画	・授業を理解していることを確認しながら、急ぎ過ぎないペースで取り組ませる。また、テスト前にしっかりと振り返りをする時間も確保する。 ・学び合い以外の言語活動など、数学的活動を複数の方法で取り組む。 ・学習者用端末での問題演習も活用し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	・学習内容を定着させるために、適宜学び合い活動を行う。 ・テストの振り返りや解き直しレポートに取り組ませ、間違えてしまった問題の共通点を見出すとともに、家庭学習方法の振り返り改善を図る。 ・ICTの活用。	・既習事項の確認のために、単元テストを実施しながら、定着度を図っていく。 ・思考を高めるために、グループに協同作業を取り入れながら、様々な生徒の意見を聞ける授業展開もしていく。
評 価 方 法	・単元ごとに小テストなどを行い、数学的技能等評価をする。 ・数学の内容をまとめるレポートから、数学的な思考・判断・表現の力等を評価する。	・授業での取り組み状況や問題集やノート、レポートなどで評価する。 ・テストだけでなく、言葉を使って表現する、思考・判断・表現の力を評価する。	・確認テストを行い、数学に対する主体性や知識・技能、思考・判断・表現の力を評価し、授業展開を考えていく。 ・授業内の課題や話し合い活動への参加の状況、また自身の考え方の説明の状況などから評価することによって、生徒個人の成果や課題を確認していく。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	・授業アンケートの結果から、理科に対して前向きに取り組もうとしている生徒が多いことがわかる。 ・内容は理解できていても、語句を覚えていなかったり、細かい部分までの理解ができていない生徒が一定数いる。	・実験の取り組みや授業アンケートの結果から理科に対しての興味関心が高いことがうかがえる。 ・化学変化を化学式で表現するなど現象等の説明などの思考、表現力が不十分である。	・授業アンケートの回答の傾向から、授業への取り組む姿勢は前向きであると考えられる。学校の定期考査と復習確認テストの結果の乖離が大きく、学習内容の定着は短期的なものになっている生徒が多いことがうかがえる。
学習状況	・思考課題に対して一人一人が自分の頭で考えようとする姿勢から、授業中の集中度は高いといえる。 ・テスト前に課題として示さないと、範囲を示しただけでは自発的にタブレット学習を行う生徒があまり多くはなかった。	・学習に意欲的に取り組む生徒が多いが、なかなか集中して授業に取り組むことができない生徒がいる。 ・宿題の提出率は高いが、内容が完全でないものが多いので、指導していく必要がある。	・学習に意欲的な生徒が多いものの、実験やグループワークを伴わない活動になると集中することが難しい生徒も一定数いる。 ・学習者用端末を用いた自宅学習への取り組み状況は、比較的良かった。
指導上の課題	・思考課題に対する考えは一人一人もてているが、それがしっかりと深まっている生徒はそこまで多くない。また、他の人の考えをもとに、自分の考えを再構築していく生徒がまだあまりいない。	・実験等の結果から考えられる考察を深める力を高めるために、自分の考えを文章にして、話し合いや発表などの言語活動を充実させる必要がある。 ・授業で行った内容を家庭で振り返ったり、家庭学習を意欲的に進める力を付ける必要がある。	・実験等の結果から考えられる考察を深める力を高めるために、自分の考えを文章にして、話し合いや発表などの言語活動を充実させる必要がある。 ・1、2年生の内容の復習も授業と並行して行う必要性に気づかせる必要がある。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	・思考課題に対する考えをより深めていくために、意見発表の場面でICTを活用し、より他の人の意見を取り入れやすいように工夫をする。 ・ICTを活用した学習を促進するため、授業内でも取り組む時間を設定する。	・日常生活や自然現象との関わりを意識させながら、興味・関心を高めるとともに、科学的思考力を深めさせる授業を行う。 ・家庭学習を充実させるため、eライブラリー、ワークによる課題の取り組みを充実させる。	・理科と日常生活との関わりを題材にし、興味・関心を高めるとともに、科学的思考力を深める。 ・授業内での生徒間のやり取りを増やし、アウトプットをする場面を増やし、知識の定着と理解を深めさせる。 ・家庭学習を充実させるため、学習者用端末の活用を進める。
評価方法	・思考課題に対する考えを毎回評価し、状況に応じて適切な助言を全体に向けて行っていく。 ・ICTを活用した学習の状況を見ることができるので、その状況を見ながら助言を行っていく。	・観察、実験結果からどのようなことを導き出せるか、記入させる。 ・小テストを用いて、知識、思考を評価する。 ・ワークの取り組み、振り返りを定期的に確認する。	・観察、実験のプリントの結果、考察、まとめ、感想の内容を確認する。 ・単元テストでの取り組み。 ・ワークの取り組み、振り返りを定期的に確認する。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学 力 分 析	・素直で明るい雰囲気があり、それは表現という活動の根底にあるので、歌唱の活動には積極的な生徒が多い。 ・鑑賞の感想など、文章表記については、課題のある生徒がいる。	・歌唱活動に抵抗のある生徒が見受けられるが、クラスによって雰囲気が異なる。 ・音楽科の基礎知識（音符と休符の長さの割合、諸記号）は、理解している生徒と課題のある生徒の差が大きい。	・最上級生として、歌唱に関する技術が身に付いてきた生徒が多くみられる。 ・西洋音楽史などの知識に関することには、課題のある生徒が見られる。
学 習 状 況	・すべての音楽活動に前向きに取り組んでいるが、音楽科の基礎知識（音符と休符の長さの割合など）が身に付いていない。	・歌唱活動には消極的であったが、少しずつ意欲が見られるようになった。 ・提出物等はしっかりしている。	・歌曲の歌詞の内容などを考えて表記することには、課題がある。
指 導 上 の 課 題	・表現の音楽活動は、雰囲気が重要なので、生き生きと活動できるように導くことを心がける。 ・音楽科の基礎（音符と休符、記号など）に関しては、リピート練習をさせなければならない。	・歌唱活動をしやすい雰囲気をつくること。 ・音楽科の基礎については、繰り返し練習問題に取り組ませることが必要である。	・より高い芸術性を育むための手だてをもつこと。 ・知識については、丁寧に指導をすること。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改 善 計 画	・範唱を丁寧に言い、響きを感じさせ、それを実践する意欲を育てる。 ・知識の基礎のワークシートを毎時間用意して取り組ませる。	・音楽活動の意欲を喚起するべく、範唱範奏、明るく開放的な雰囲気をつくる。楽曲のよさについて、学習者用端末等を使用して気付かせる。 ・基礎知識についてのワークシートを毎時間用意して取り組ませる。	・声の響き、曲想を意識して歌唱表現するように指導する。 ・音楽史の練習問題に繰り返し取り組ませて理解につなげる。音楽史は学習者用端末にて画像で説明をする。
評 価 方 法	・実技テストにて、個々の歌唱力を評価する。 ・プリント類を点検し、基礎の理解度を確認する。また、定期考査にて出題して理解度を確認し、評価する。	・ワークシートへの記述、実技テストや観察にて評価する。 ・ワークシートや定期考査にて理解度を確認し、評価する。	・実技テストにて個々の歌唱力を評価する。 ・ワークシートの点検、定期考査にて理解度を確認し、評価する。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学 力 分 析	・意欲的に学習に取り組める生徒がほとんどである。 ・自分の意図や感じたことを言語化できる生徒が多い。	・得意、不得意をそれぞれ感じる生徒が二極化している。 ・発想したり創意工夫したりする力のある生徒が多い。	・地道に努力できる生徒が多いが、思考を深めたり既習事項を応用したりする力が弱い生徒が多い。
学 習 状 況	・グループワークや全体の場合での発言など活発に行えている。 ・1～3時間程度での短期的な制作に取り組み、概ね時間内に仕上げる力が付いてきた。	・定期テストの結果から、既習事項の定着が弱いことが見受けられる。 ・アイデアをアウトプットする際、知識を活用できずうまく表現できていない生徒の割合が高い。	・得意不得意に関わらず、ほとんどの生徒が積極的に取り組んでいる。 ・制作の振り返り等から、課題の趣旨や題材のねらいを正しく理解しないまま制作している様子が見られる
指 導 上 の 課 題	・制作に時間を充てるために、振り返りを毎時行えていない。 ・班隊形の机のため、作業と教え合いのメリハリをつける必要がある。 ・支援が必要な生徒への合理的配慮として、課題の難易度の幅を持たせる必要がある。	・時数が限られているため、制作時間を優先し、丁寧に知識を確認する時間がとれていない。 ・支援が必要な生徒への合理的配慮として、課題の難易度の幅を持たせる必要がある。	・時間をかけて制作を行う際、初めに確認したねらいへの意識が薄れてしまっている。 ・時数の変動や、生徒の実態により制作時間が計画通り進まず、生徒自身も見通しがもてていない部分がみられた。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改 善 計 画	・振り返りの内容を簡易的なものとし、まずは取り組みの習慣化を図る。 ・個人作業と意見交換の時間をそれぞれ設定し、区別する。 ・標準的なワークシートその他、補助的なワークシートを作成し、希望生徒が活用できるようにする。	・スライドや映像、書き込み済みのプリントを使用するなど、知識伝達の効率化を図る。 ・標準的なワークシートその他、補助的なワークシートを作成し、希望生徒が活用できるようにする。	・本時の目標を示すとともに、題材を通しての目標を確認し、身に付けるべき知識・技能を理解させる。 ・時数内での制作計画を立てさせる。 ・制作時間数を毎時示し、現在の進捗を確認させる。
評 価 方 法	・毎時の振り返りをスライドに記入させ、作品写真とともに進捗・創意工夫・生徒自身が学び取ったことなどを見取る。 ・補助資料を活用したり、助言を参考にしたりするなど、制作を円滑に行うために多様なツールを選び取れているかを取り組みや振り返りから見取る。	・定期考査や必要に応じて小テストなど実施し、必要な知識が定着しているかを確認する。 ・補助資料を活用したり、助言を参考にしたりするなど、制作を円滑に行うために多様なツールを選び取れているかを取り組みや振り返りから見取る。	・授業の取り組みや振り返りから、目標を達成するためにどのような手だてを行ったか、知識・技能の習得ができたかを見取る。 ・作品の進捗や振り返りから、予め制作計画を立てられているか、立てた計画に沿って制作・または調整ができているかを見取る。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	・運動に主体的に取り組む生徒が増え始めてきた。学習カードの記入など、自己を分析して課題解決を図る生徒が少ない。また、学習した内容を、言葉や文章で表現することが苦手である。 ・各単元での知識と特性の理解を身に付けている生徒が少ない。	・運動への主体的に取り組む生徒が増え始めてきた。学習カードの記入など、自己を分析して、自らの言葉や文章に表して課題解決を図る生徒が少ない。 ・各単元での知識と特性の理解を身に付けている生徒が少ない。	・運動へ主体的に取り組む生徒が増えてきた。 ・学習カードの記入において、自己を分析して、考えを表現できる生徒が増えてきている。 ・ルールや競技に必要な知識については、よく学習している。
学習状況	・集団行動や授業規律が定着しつつある。 ・仲間と共に学習し、運動への向上意識は芽生え始めているが、声かけが抽象的である。 ・男女共習でお互いの良さを認められるようになった。	・集団行動や授業規律が定着しつつある。 ・仲間と共に学習し、運動への向上意識は芽生え始めているが、声かけが抽象的である。 ・男女共習でお互いの良さを認められるようになった。	・集団行動をはじめ、授業規律における意識は大変高い。 ・男女共習においても、分け隔て無く協力する姿が見られる。 ・話し合い活動を積極的に行うことができる。
指導上の課題	・より分かりやすい説明を心がけ、積極的に活動できる環境を作る。 ・話し合い活動を取り入れ、自ら考え行動できる場面を設定する。 ・学習カードの書き方の助言が必要である。 ・ICTの活用をしていく。	・より分かりやすい説明を心がけ、積極的に活動できる環境を作る。 ・話し合い活動を取り入れ、自ら考え行動できる場面を設定する。 ・学習カードの書き方の助言が必要である。 ・ICTの活用をしていく。	・より分かりやすい説明を心がけ、積極的に活動できる環境を作る。 ・話し合い活動を取り入れ、自ら考え行動できる場面を設定する。 ・学習カードの書き方の助言が必要である。 ・ICTの活用をしていく。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	・授業規律の徹底を継続する。 ・男女共習により、互いの学びができる話し合い活動をより活発に行わせる。 ・運動量の確保を行う。 ・ICTの活用と運動量を両立させる。 ・ワークシートを活用し、自己の振り返りを行わせる。 ・安全への配慮をさらに徹底する。 ・個々の違いに応じた課題や挑戦の機会を設定する。	・授業規律の徹底を継続する。 ・男女共習により、互いの学びができる話し合い活動をより活発に行わせる。 ・運動量の確保を行う。 ・ICTの活用と運動量を両立させる。 ・ワークシートを活用し、自己の振り返りを行わせる。 ・安全への配慮をさらに徹底する。 ・個々の違いに応じた課題や挑戦の機会を設定する。	・授業規律の徹底を継続する。 ・男女共習により、互いの学びができる話し合い活動をより活発に行わせる。 ・運動量の確保を行う。 ・ICTの活用と運動量を両立させる。 ・ワークシートを活用し、自己の振り返りを行わせる。 ・安全への配慮をさらに徹底する。 ・個々の違いに応じた課題や挑戦の機会を設定する。
評価方法	・授業への取り組み状況。 ・ワークシートの記入状況。 ・定期考査。 ・実技では記録だけでなく、フォームの完成度も評価する。	・授業への取り組み状況。 ・ワークシートの記入状況。 ・定期考査。 ・実技では記録だけでなく、フォームの完成度も評価する。	・授業への取り組み状況。 ・ワークシートの記入状況。 ・定期考査。 ・実技では記録だけでなく、フォームの完成度も評価する。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学 力 分 析	工具・機械の正しい使用法はおおむね理解している。製作図をかく力が若干不足している。作品の構想について、アイディアの広がりには差が生じている。	1年で学習したけがきの仕方は、多くの生徒ができるようになっており技能の定着がある。そのため、あんどん製作では計画的に取り組めるようにする。	工具・機械の正しい使用法はおおむね理解している。電子部品を基板に取り付ける作業は、ほとんどの生徒ができています。
学 習 状 況	作品の製作に関心を高くもち、さらに良いものにしようと、意欲的に取り組んでいる。作業上の注意を守りながら、安全に気を付けて作業を行っている。	作品の製作に関心をもち、意欲的に取り組んでいる生徒は少ないが。作業上の注意を守りながら、安全に気を付けて作業を行っている。	作品の製作に関心を高くもち、意欲的に取り組んでいる。技術の見方・考え方が身に付いている生徒もいる。
指 導 上 の 課 題	学習者用端末を用いた授業展開ができていないので、生徒が分かりやすく、取り組みやすいように学習者用端末を効果的に使えるように授業改善していく必要がある。	制作意欲があまり高くないので、生徒たちの興味関心を高められるような、導入や授業展開ができるように授業改善していく必要がある。	例題などを提示することによって、理解をすることができる生徒が多いので、見通しを持たせ説明する時間を確保して、授業を効率的にするように心がける。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改 善 計 画	工具類の使い方を学習し、板材を使用した自由題材を使って木材加工を実施する。ただし、設計しやすいようにワークシート等段階を踏んで計画的に進められるように改善する。	栽培に関わる基礎知識を学習しつつ、実際に大根栽培を育てる技能実習に活かしていくように授業改善する。あんどん製作を計画的に取り組んでいけるようにする。	計測・制御に関する技術の内容を学習する。計測・制御が社会にどのような分野で利用されているかなど、事例を挙げながら分かりやすく提示していく。
評 価 方 法	振り返りシート、問題発見解決シート、ワークシートの記入状況、作品の完成度、工具類の使い方から判断する。	振り返りシート、問題発見解決シート、ワークシート、栽培の記録の記入状況から、作品の完成度、工具類の使い方。	振り返りシート、問題発見解決シート、ワークシートの記入状況から、特にフローチャートが理解できているか判断する。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学 力 分 析	・食生活についての関心は高いが、基礎的知識の理解は個人差が大きく、不十分な傾向がある。 ・学習内容と実生活と関連付けることはできているが、生活の中で実践する生徒は多くない。	・衣生活に関しては関心の高い生徒もいるが、一方で興味関心の低い生徒もみられる。 ・自分自身の生活の中で身近な問題を見付けることができる。	・消費生活についての関心の高い生徒もいる一方で、興味関心の低い生徒もみられる。 ・学習したことを理解し、自分の生活との関わりを考えることができる生徒が多くみられる。
学 習 状 況	・多くの生徒が落ち着いて、意欲的に学習に取り組むことができている。 ・ワークや課題の記入状況もよい。 ・生活の中で課題を見付け、解決するために必要な深く考える力、思考力を高める必要がある。	・多くの生徒が落ち着いて学習に取り組む、知識も定着してきている。 ・ワークや課題の記入状況もよい。 ・生活の中で課題を見付け、解決するために必要な深く考える力、思考力を高める必要がある。	・多くの生徒が落ち着いて、意欲的に学習に取り組む、知識も定着している。 ・ワークや課題の記入状況もよい。 ・より深く思考する力を高める必要がある。
指 導 上 の 課 題	・調理実習未経験の学年のため、基本的なことを中心に調理実習を行い、栄養的特徴や調理上の性質について理解の定着と実践力を身に付けさせる。 ・学習内容を理解し、実習、課題に取り組む力を高めるために、授業中の ICT 活用や個別指導を充実させる。	・学習内容を理解し、実習、課題に取り組む力を高めるために、授業中の ICT 活用や個別指導を充実させる。 ・安全に実習を行うための知識・技能を定着させる。	・グループワークを活用し、学び合いによって学習課題を解決できる場面を設定していく。 ・全体指導の後、つまずきのみられる生徒には個別対応をし、基礎的・基本的な内容を習得させる。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改 善 計 画	・本時の目標を明確にし、見通しをもたせた展開にする。 ・デジタル教材などの視覚的資料を用いて分かりやすい授業を行う。 ・知識の定着を図るために、デジタル教材を活用し、基礎的・基本的な知識の復習を充実させる。	・本時の目標を明確にし、見通しをもたせた展開にする。実物見本、学習者用端末を活用し、視覚的資料を掲示する。 ・デジタル教材などの視覚的資料を用いて分かりやすい授業を行う。 ・全体説明の他に個別説明を通して基礎、基本の定着を図る。	・本時の目標を明確にし、見通しをもたせた展開にする。 ・基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を図るため全体説明の他に理解が不十分な生徒に対して個別に説明をする。 ・実習のまとめや考察の場面では、グループワークなどの言語活動を充実させる。
評 価 方 法	・ワークの記入状況、課題レポートの内容、授業への取り組み状況。 ・定期考査、及び実技の取り組み状況。 ・授業や単元の「ふり返し」を通して毎時間の学習内容の定着度を把握する。	・ワークの記入状況、課題レポートの内容、授業への取り組み状況。 ・定期考査、及び実技の取り組み状況。 ・授業や単元の「ふり返し」を通して毎時間の学習内容の定着度を把握する。	・ワークの記入状況、課題レポートの内容、授業への取り組み状況。 ・定期考査、及び実技の取り組み状況。 ・デジタル教材を活用し、学んだことをふり返らせるとともに、達成度を生徒自身に確認させ、評価につなげる。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	臆せず英語を言うことに慣れていてアルファベットを書けるようになっているが、単語はまだあまり書けない生徒が多い。短い文や会話には慣れているが、まとまった英語を聞いたり読んだりすることに慣れていない。	自分のことに関し表現できる力を付ける上でベースとなる母国語に課題がある生徒もいる。また、英語の語順、文法、語法が定着していない生徒もいる。	意味が分からない英語や、書きたい英語を調べるときにタブレットを使い過ぎており、自分が伝えたいことを英語で書くことや、長めの英文を読んで、概要や要点を理解することを苦手としている生徒が多い。
学習状況	音読やペア、グループワークで英語を使おうと努力し、ねばり強く課題に取り組もうとする生徒が多い。しかし、家庭で自ら課題を見つけ復習をする習慣が付いていない生徒も少なくない。	授業に向かう気持ちが安定しない生徒もいるが、昨年と比較して課題等に取り組む姿勢が向上している。ノート指導やテスト勉強のポイントを絞ることにより、家庭での学習方法を少しずつ確立してきた生徒も見受けられてきている。	授業には意欲的に取り組んでいる。また、ペアワークも友達と協力しながら活動している。授業や家庭で英文を読んだり書いたりする習慣がまだ付いていないように感じる。
指導上の課題	まとまった簡単な英語をできるだけ英語で理解できるようトレーニングをしていく。 英語を聞いたり読んだりしたときに、できるだけ英語で理解できるように、聞くことと読むことを繰り返していく。 家庭学習に自ら取り組める姿勢を身に付けさせていく。	インプットを確実に行う授業展開を意識し、基礎基本がインプットできたらアウトプットの練習を行う。まずは即興性にこだわらず、基本的な英語を使い、しっかり生徒の中に落とし、時間がかかっても自分のことを表現できる練習を行っていく。	自分が書きたいことをどのように英語で表すか、長文を読んでどのように概要や要点を捉えるかを指導していく必要がある。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	できるだけ多くのパターンプラクティスを授業の中に組み込み、できるだけ多くパターンをインプットしていく。そして、インプットしたものを状況に合わせてアウトプットする練習を授業に組み込んでいく。	基礎基本の丁寧な指導→反復練習→自己表現練習を授業の中で繰り返していくことで簡単な英語でも表現力が広がる工夫をしていく。また、基本的な教科書やノートの活用が定着してきたので家庭学習で生徒自身がオリジナリティを出せるよう促していくことが成長段階として必要になってくる。	授業の中で英語を書く時間をより多く設定する。家庭学習の指示を明確にし、やってきたことへのフィードバックを行う。
評価方法	課題、パフォーマンステスト、定期考査、授業内での取り組み	・課題の点、・パフォーマンステスト ・小テスト、定期テストで学習の定着度を評価する。 ・授業内での取り組み	課題の点検、パフォーマンステスト、定期考査で学習の定着度を評価する。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	・道徳的实践力は個々に差があるが、テーマについて受け止める力がある。	・道徳的实践力は個々に差があるが、テーマを意識した学習ができる。内容を深く考え、自己の考えや思いを記述できる生徒が多い。	・資料を読み、道徳的価値に迫る思考をすることができる。自己の考えや思いを記述できる生徒が多い。
学習状況	・資料を読み、発問に対し考え、自分の考えを記入するなど、授業に取り組む姿勢ができています。 ・振り返りをキラリノートに記入し、自己の考えを深めることができます。	・自分の考えや気持ちを文章に表現し、他者に伝えることができる生徒が多い。 ・小グループでは積極的な発言が多く見られる。全体の場合でも、積極的に挙手をし、発言できる生徒がいる。	・自分の考えを文章で表現し、グループ内で活発に意見交換ができる。 ・キラリノートの振り返り欄に、授業内で感じたことや気付いたことを書き、自分と向き合うことが出来ている。
指導上の課題	・生徒に自己の考えを深める機会を与え、自己の考えを文章でまとめて表現させること。 ・道徳的実践力を養うために日常生活と結び付け、継続的な指導をすること。	・指導内容を押しつけないように、生徒自らが道徳的価値を見いだせるような授業の工夫をすること。 ・道徳的実践力を養うために日常生活と結び付け、継続的な指導をすること。	・生徒が考えを深められるよう、教材や導入の工夫をすること。 ・道徳的実践力を養うために日常生活と結び付け、卒業後の社会的自立を目指した指導を行うこと。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	・道徳的実践力を育成するため、まとめて自己の考えを振り返るとともに、フィードバックする場面を作る。 ・他者と話し合うなかで、様々な価値観を認める態度を養う。	・話し合い活動の時間を増やし、自己の考えと他者の考えを比較・検討しながら様々な価値観を認める態度を養う。	・ペア学習や少人数での活動の場を増やし、自己の考えと他者の考えを比較しながら様々な価値観を認める態度を養う。 ・視聴覚教材を適切に取り入れる。
評価方法	・自己と向き合い、考えることができたか、発表内容や「キラリノート」の記述内容から確認し評価する。	・「ココログノート」を用いて一時間ごとに自己評価をさせることで道徳的な価値観の変容を評価する。	・「キラリノート」への記入内容、意見発表、タブレットへの入力内容からどれほど深く考えることができたかを評価する。